基本に返って一から出直しだ～

北村　寿宏（島根大学産学連携センター）

「一から出直す」・・・・今の正直な気持ちです．

島根大学では，島根大学と島根医科大学との統合と国立大学法人化に伴い，センターの統合や改組が行われた（「行った」と言った方が的を射てるかもしれない）．

センターの統合，改組の経緯を簡単に説明しておこう．

平成１５年１０月に，島根大学と島根医科大学とが統合し，これに伴い，地域共同研究センターと地域医学共同研究センターとが統合し，共同研究センターとなった．この時点では，専任教官（当時）は，それぞれ１名ずつ配置されており，そのままであった．

平成１６年１０月に島根大学では，共同研究センターが産学連携センターになった．そもそもの発端は，法人化に伴い特許などの知的財産を大学帰属することを決めたところにある．当大学でも，特許などの知的財産を原則，大学に帰属させることとなり，これを取り扱う部署が必要になったためだ．

知財本部整備事業に申請し，不採択となった後，どのような組織で知的財産を取り扱うのかという議論がなされた．ちなみに，島根大学はＴＬＯを有していない．様々な議論の末，結局，知財本部を作らずに，産学連携と知財の取り扱いは表裏一体の関係にあると言う考えに基づき，これまでの共同研究センターに知的財産を取り扱う部門を整備し，リエゾン活動から知的財産の創出活用まで，一つの組織で行うこととなった．そのため，組織の名称も外からわかりやすくするという観点から，「産学連携センター」と決まった．産学連携センターの組織の概略を図１に示す．産学連携センターでは，知的財産も産学連携に関わる特許などを中心に，その創出と活用を取り扱うことなった．これは，特許等は，産学連携，特に共同研究やプロジェクト研究の出発の核になる，または．共同研究などから生まれ出て事業化の核になる，と言う基本的な考えに基づいている．すなわち，知財の創出活用も産学連携活動の一環として位置づけている．

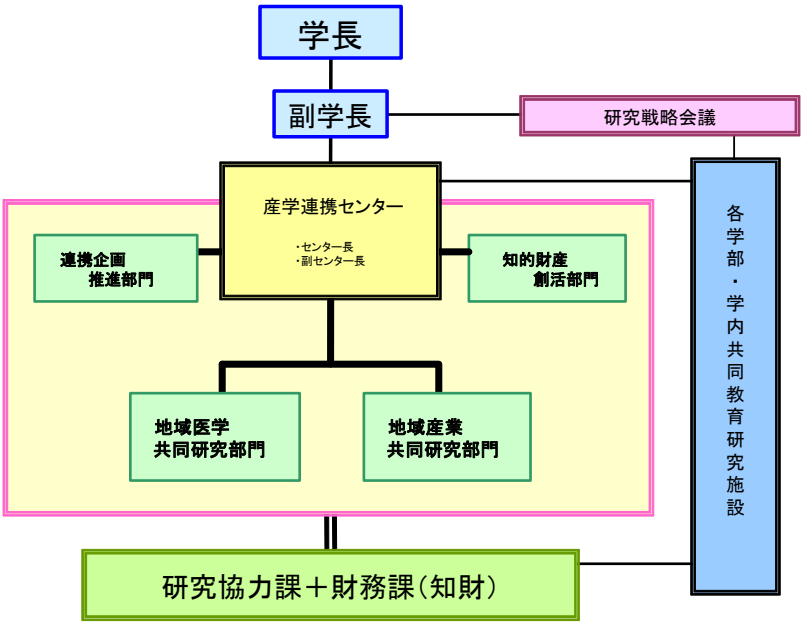

図１　島根大学産学連携の組織（H17 年度時点）

このような経緯で，ここ３年ほどで大きく様変わりをしてしまった．この間，センターの統合と改組の雑務に振り回され，体制整備に翻弄されていた気がする．その甲斐あってかどうかはわからないが，センターの教員は２名から４名に増員され，また，改組に伴う規則改

正により講師，助教授，教授をおくことができるようになった．平成１８年４月に４人目の専任教員が着任する予定になっている．（平成１７年１１月２０日現在，公募中）

しかし，この体制整備に翻弄された期間，本来の産学連携活動はどうなっていたのであろう．細々と続けていたものの，限られたスタッフ（専任２名）では，手が回らず，その結果は見事に現れてきた．島根大学の共同研究の件数は，平成１４年年度８２件，平成１５年度１４０件，平成１６年度１１３件，平成１７年度はもう少し低下しそうな状況である．数字はすなおである．改組や知財取り扱いなど，体制整備に労力と時間が割かれ，結果として産学連携活動が手抜きになったのである．企業から大学に移ってきて７年目となるが，まだまだ大学のやり方に慣れないところがある．知財の取り扱いの必要性は明白であり，また，産学連携活動が必要なことも理解されていると思ったが，それとは関係無しに，この組織の変更には，学内での十分な議論が必要だったのである．現在は，議論が不十分だったためか，学内の雰囲気も盛り上がらず，あちこちで行き違いが生じているように感じられる．法人化したとは言え，役員や学内の意識はそう簡単には変わらなかったようである．（当然かもしれないが）その後の状況を見ていても，学内の状況にはがっかりすることが多い．特に，決断力，スピード感はどうしようもなさそうである．企業から来たせいか，はたまた，産学連携という社会と接する仕事をしているせいか，スピード感には多少敏感である．このままの状況が続くと，先はどうなるのかと，危惧が続いている．

さて，こらからどうするか？

来年（平成１８年）４月には，４人目の専任教員が着任する予定で，この方が揃うといよいよ産学連携センターの完成となる．

この機に，基本に返って，一から出直すしかなさそうである．

ところで，産学連携の基本って何でしょう．

その前に，ビジョンを，ポリシーを，計画を・・・と議論を続けている場合ではなさそうだ．地道に研究シーズや企業のニーズを把握し，共同研究に結びつけ，実用化を支援していくことでしょうか？　営業の基本かもしれませんが，地道に足で稼ぐ活動をもっと進めていかないのかもしれません．大学の産学連携は，直接的な社会貢献，特に，地域社会への貢献，の重要な手段であることは間違いない．しかし，それとともに，大学の本来の活動である教育や研究活動の活性化につなげていくことも絶対に忘れてはならない．このためには，やはり，先生方の意識を変え，学内の雰囲気を変えていくことが必要であり，先生方への戸別訪問を含め，地道な活動が必要なのかもしれない．それ以前に，役員の意識改革が必要？・・・これはもっと難儀しそうである．

「一から出直す」，今一度，基本を見直そうと思う今日この頃です．

さて，来年はどんな愚痴が・・・・早く愚痴のない日々が送れることを夢見て，今日も地道な活動に精を出していこう．

（平成１７年１１月）